

審査意見への対応を記載した書類（6月） 別添資料

目次

（博士前期課程）

資料 01 養成する人材像と3つのポリシーの各項目の相関図及びカリキュラム・ポリシーと教育課程の相関図の新旧対照表	2
---	---

（博士後期課程）

資料 01 養成する人材像と3つのポリシーの各項目の相関図及びカリキュラム・ポリシーと教育課程の相関図の新旧対照表	2
資料 02 創薬研究インターンシップ・ループリック評価表	6

養成する人材像

異分野融合型創薬科学研究の土台となる基礎科学の思考力、知識や技術を築くことができ、科学的な問題解決能力を有し、グローバルな視点で創薬科学研究を進め、自らの研究成果を適切に社会に伝えることのできる人材

ディプロマ・ポリシー

DP 1. 本研究科の各研究領域に関する修士論文の作成・発表を通して、学術論文を調査・解析し、研究成果を論理的に記述する能力及び発表する能力を身に付けている。
(CP1)

DP 2. 創薬科学研究に関する多様な専門知識・技術を有し、異分野融合の重要性を認識したうえで、創薬プロセスを理解し、研究遂行する能力を身に付けている。
(CP1・2・3・4)

DP 3. グローバルな視点から、研究遂行、判断、論理的思考、問題解決、プレゼンテーション、ディスカッションができる能力を身に付けている。
(CP1・5・6)

DP 4. 高い倫理観を持ち、社会的責任を果たすことの重要性を理解し実践する能力を身に付けている。
(CP1・7)

カリキュラム・ポリシー及び教育課程

CP 1. 創薬科学や関連分野に関する特定の研究課題に取り組み、主体的に研究を計画・遂行し、得られた結果を適切に解析・分析して独創的で新規性のある結論に導く能力を養成するための科目（演習、実験・実習）を置くとともに、必要な研究指導を実施する。
(AP1・2・3)

創薬科学特別演習1	創薬科学特別研究1
創薬科学特別演習2	創薬科学特別研究2
創薬科学特別演習3	創薬科学特別研究3
創薬科学特別演習4	創薬科学特別研究4
研究企画ゼミナール1	
(研究指導)	

CP 2. 創薬科学の基盤となる薬学の基礎的知識を含め、創薬プロセスの全体像を理解するための科目（講義）を置く。
(AP1・2)

創薬科学基礎講義

CP 3. 異なる専門分野における最先端の実験技術やそれぞれに特有の研究手法を修得するとともに他分野の視点を学び、創薬科学に関する多様な知識や技能を養成するための科目（講義、実験・実習）を置く。
(AP1・2・3)

異分野創薬ラボ体験プログラム	
機能生化学特論	細胞生物学特論
計算分子生物学特論	生体高分子化学特論
ゲノム安全科学特論	分子生物学特論
医科学特論	創薬材料科学特論
核酸創薬科学特論	創薬生命化学特論
生体高分子創薬科学特論	創薬免疫工学特論
創薬構造生物学特論	標識創薬化学特論
創薬抗体工学特論	病態創薬科学特論

CP 4. 最先端の研究を行う学外講師により、創薬科学分野のより広範な専門知識と調査・研究方法を養成するための科目（講義）を置く。
(AP1・2)

創薬科学特別講義
創薬科学研究者養成講義A
創薬科学研究者養成講義B

CP 5. 世界で活躍する研究者に必要な英語による創薬科学に関するコミュニケーション及びプレゼンテーション能力を養成するための科目（演習）を置く。
(AP2・3)

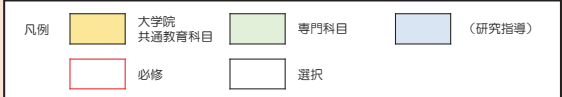
創薬科学グローバルプレゼンテーション

CP 6. 学術交流協定締結校や国際共同研究機関に所属する研究者により、国際的で幅広い視点からの知識や研究技術を養成するための科目（講義）を置く。
(AP2・3)

国際性涵養プログラム

CP 7. 公正性の高い研究を実施するための基本的ルールや倫理観、先取権や知的財産の理解など現代社会が研究者や技術者に求める多様な知識や能力を養成するための科目（講義）を置く。
(AP1・2)

研究公正A



アドミッション・ポリシー

AP 1. 異分野融合型創薬科学研究に関連する専門分野（薬学、理学、工学、農学、医学、獣医学等）において、少なくとも1つの分野で優れた学業成績を持ち、異分野融合研究に関して意欲のある人物。

AP 2. 本研究科での学修・研究に必要な基礎学力を備え、グローバルな視点で創薬科学研究を進める意欲のある人物。

AP 3. 異なるバックグラウンドを持つ研究者同士が協力するために必要な、高いコミュニケーション能力や協調性を有する人物。

養成する人材像

創薬科学研究の土台となる基礎科学の思考力、知識や技術を築くことができ、科学的な問題解決能力を有し、グローバルな視点で創薬科学研究を進め、自らの研究成果を適切に社会に伝えることのできる人材

ディプロマ・ポリシー

DP1. 本研究科の各研究領域に関する修士論文の作成・発表を通して、学術論文を調査・解析し、研究成果を論理的に記述する能力及び発表する能力を身に付けている。
(CP1)

DP2. 創薬科学研究に関する高度で幅広い専門知識・技術を有し、創薬プロセスを理解し遂行できる。
(CP2・3)

DP3. グローバルな視野を持ち、独自の研究遂行力と判断力、論理的思考力、問題解決能力、プレゼンテーション能力やディスカッション能力を身に付けている。
(CP1・2・3・4・5)

DP4. 高い倫理観を持ち、社会的責任を果たすことの重要性を理解し実践する能力を身に付けている。
(CP1・6)

カリキュラム・ポリシー及び教育課程

CP1. 創薬科学や関連分野に関する特定の研究課題に取り組み、主体的に研究を計画・遂行し、得られた結果を適切に解析・分析して独創的で新規性のある結論に導く能力を養成するための科目（演習、実験・実習）を置くとともに、研究指導教員の下で必要な研究指導を実施する。
(AP1・2・3)

創薬科学特別演習1	創薬科学特別研究1
創薬科学特別演習2	創薬科学特別研究2
創薬科学特別演習3	創薬科学特別研究3
創薬科学特別演習4	創薬科学特別研究4
研究企画ゼミナール1	
(研究指導)	

CP2. 異なる専門分野における最先端の実験技術やそれぞれに特有の研究手法を修得するとともに他分野の視点を学び、創薬科学に関する多様な知識や技能を養成するための科目（講義、実験・実習）を置く。
(AP1・2・3)

異分野創薬ラボ体験プログラム	
機能生化学特論	細胞生物学特論
計算分子生物学特論	生体高分子化学特論
ゲノム安全科学特論	分子生物学特論
医科学特論	創薬材料科学特論
核酸創薬科学特論	創薬生命化学特論
生体高分子創薬科学特論	創薬免疫工学特論
創薬構造生物学特論	標識創薬化学特論
創薬抗生工学特論	病態創薬科学特論

CP3. 最先端の研究を行う学外講師により、創薬科学分野のより広範な専門知識と調査・研究方法を養成するための科目（講義）を置く。
(AP1・2)

創薬科学特別講義A
創薬科学特別講義B
創薬科学研究者養成講義A
創薬科学研究者養成講義B

CP4. 世界で活躍する研究者に必要なとなる英語による創薬科学に関するコミュニケーション及びプレゼンテーション能力を養成するための科目（演習）を置く。
(AP1・2・3)

創薬科学グローバルプレゼンテーション

CP5. 学術交流協定締結校や国際共同研究機関に所属する研究者により、国際的で幅広い視点からの知識や研究技術を養成するための科目（講義）を置く。
(AP1・2・3)

国際性涵養プログラム

CP6. 公正性の高い研究を実施するための基本的ルールや倫理観、先取権や知的財産の理解など現代社会が研究者や技術者に求める多様な知識や能力を養成するための科目（講義）を置く。
(AP1・2)

研究公正A



アドミッション・ポリシー

AP1. 創薬科学は、薬学、物理学、化学、生物学、医学、工学などの複数の分野の知識が統合される領域であることから、これらの分野で優れた学業成績を持ち、特に異分野間での知識融合やアイデア発展能力、論理的思考力、融合研究に関するポテンシャルや創造性を有する人物。

AP2. 本研究科での学修・研究に必要な基礎学力を備え、グローバルな視点で創薬科学研究を進める意欲のある人物。

AP3. 異なるバックグラウンドを持つ研究者同士が協力するために必要な、高いコミュニケーション能力や協調性を有する人物。

養成する人材像

優れたリーダーシップを有し、異分野融合型創薬科学のフロンティアに挑戦し画期的な新知見を生み出すことができ、創薬科学研究で得られた成果を国内外で社会に還元し、製薬企業や医療、健康分野でグローバルに貢献できる人材

ディプロマ・ポリシー

DP1. 本研究科の各研究領域に関する博士論文の作成・発表を通して、高い研究能力や問題解決能力、主体的に研究課題から問題を抽出し、論理的に解決へと導く能力を身に付けている。また、研究成果を国際的に発信できるよう英語論文にまとめる能力を身に付けている。
(CP1)

DP2. 創薬科学における多様な専門知の融合により、複雑な課題に対して実践的に解決できる能力を身に付けている。
(CP1・2・3・5)

DP3. 創薬科学における世界的な動向や課題を理解し、国内外の研究者と協働するために必要な研究遂行能力とコミュニケーション能力を身に付けている。
(CP1・2・3)

DP4. 創薬科学のフロンティアを切り拓くリーダーとして、起業家精神、新しいアイデアを実現するためのイノベーション能力や創造性、社会貢献への強い使命感と責任感、高い倫理性を身に付けている。
(CP1・2・3・4)

カリキュラム・ポリシー及び教育課程

CP1. 創薬科学に関する研究を自ら立案して実行するための多様な専門知識と技術を修得し、独創的かつ柔軟性に優れた自立的研究能力、総合的な視野で研究成果を発信する能力、また、研究者として必要な創造性、論理的思考力、問題解決能力、倫理観と責任感を養成するための科目（演習、実験・実習）を置くとともに、必要な研究指導を実施する。
(AP1・2・3・4)

創薬科学特別演習5	創薬科学特別研究5
創薬科学特別演習6	創薬科学特別研究6
創薬科学特別演習7	創薬科学特別研究7
創薬科学特別演習8	創薬科学特別研究8
創薬科学特別演習9	創薬科学特別研究9
創薬科学特別演習10	創薬科学特別研究10

研究企画ゼミナール2

(研究指導)

CP2. 製薬企業などの研究現場で創薬プロジェクトに参画し、様々な実験技術やデータ解析手法を修得するとともに、プロジェクト管理やチームワーク育成等の能力を身に付けるための科目（実験・実習）を置く。
(AP1・3)

創薬研究インターンシップ

CP3. 創薬科学における国際的視野に立ち、学術交流、研究活動に貢献し、研究成果を世界に発信する能力、リーダーシップを養成するとともに、英語でのプレゼンテーション能力やディスカッション能力を養成するための科目（実験・実習）を置く。
(AP1・2・3)

グローバル合宿・在外研究体験

CP4. 起業家精神を育むために必要な基礎的知識、問題解決能力、リーダーシップ、イノベーション能力、高い倫理観と社会的責任感を養成するための科目（講義、演習）を置く。
(AP1・2・3・4)

研究公正B
スタートアップ&ビジネス戦略事例研究
事業化コンサルティング演習
知的財産戦略演習
アイデア発想力養成演習
マネジメント&マーケティング演習
Marketing and Management for Innovative Products/Services
ベンチャービジネス&アントレプレナーシップ基礎演習
リーダーシップ&チームマネジメント演習

CP5. 最先端の研究を行う学外講師により、創薬科学分野のより広範な専門知識と調査・研究方法を養成するための科目（講義）を置く。
(AP1・2・4)

創薬科学研究者養成講義C
創薬科学研究者養成講義D
創薬科学研究者養成講義E



アドミッション・ポリシー

AP1. 優れた学業成績を持ち、特に異分野間の知識融合やアイデア発展能力、論理的思考力、及びインターディシプリナリーなアプローチができる高いポテンシャルを有する人物。

AP2. 大学院博士前期課程修了程度以上の基礎学力を有し、グローバルな環境下で学際研究に積極的に取り組む意欲があり、高度な英文読解力と英語表現力を有する人物。

AP3. 異なるバックグラウンドを持つ研究者を牽引するリーダーシップを発揮しながら研究を進め、その成果を適切に伝える高いコミュニケーション能力を有する人物。

AP4. 創薬科学分野あるいは関連する分野で大学院博士前期課程修了以上の研究能力を持ち、自ら研究を立案・計画・遂行できる優れた能力と知的好奇心を備えた人物。

養成する人材像

優れたリーダーシップを有し、創薬科学のフロンティアに挑戦し画期的な新知見を生み出すことができ、創薬科学研究で得られた成果を国内外で社会に還元し、製薬企業や医療、健康分野でグローバルに貢献できる人材

ディプロマ・ポリシー

DP1. 本研究科の各研究領域に関する博士論文の作成・発表を通して、高い研究能力や問題解決能力、研究成果を英語論文としてまとめる能力を身に付け、主体的に研究課題から問題を抽出し、論理的に解決へと導く能力を修得している。
(CP1)

DP2. 製薬企業や海外の学術機関における研究開発プロセスを経験することで、実践的な問題解決能力と研究遂行能力を身に付けている。
(CP2・3)

DP3. 製薬企業や海外の学術機関における研究開発プロセスを経験することで、研究者間あるいは世界で活躍するために必要なコミュニケーション能力を身に付けている。
(CP2・3)

DP4. 創薬科学のフロンティアに挑戦し、画期的な新知見を生み出すために必要な起業家精神、複雑な課題に対する分析能力、創造的な解決策を見出す能力、新しいアイデアを生み出しそれを実現するためのイノベーション能力や創造性、さらに、社会貢献への強い使命感と責任感、高い倫理性を身に付け、学際的な視点から創薬科学における世界的な諸問題の解決に貢献することができる。
(CP1・4・5)

カリキュラム・ポリシー及び教育課程

CP1. 創薬科学に関する研究を自ら立案して実行するための多様な専門知識と技術を修得し、独創的かつ柔軟性に優れた自立的な研究能力、総合的な視野で研究成果を発信する能力、また、研究者として必要な創造性、論理的思考力、問題解決能力、倫理観と責任感を養成するための科目（演習、実験・実習）を置くとともに、研究指導教員の下に必要な研究指導を実施する。
(AP1・2・3・4)

創薬科学特別演習5	創薬科学特別研究5
創薬科学特別演習6	創薬科学特別研究6
創薬科学特別演習7	創薬科学特別研究7
創薬科学特別演習8	創薬科学特別研究8
創薬科学特別演習9	創薬科学特別研究9
創薬科学特別演習10	創薬科学特別研究10

研究企画ゼミナール2

(研究指導)

CP2. 製薬企業などの研究現場で創薬プロジェクトに参画し、様々な実験技術やデータ解析手法を修得するとともに、プロジェクト管理やチームワーク育成等の能力を身に付けるための科目（実験・実習）を置く。
(AP1・3)

創薬研究インターンシップ

CP3. 創薬科学における国際的視野に立ち、学術交流、研究活動に貢献し、研究成果を世界に発信する能力、リーダーシップを養成するとともに、英語でのプレゼンテーション能力やディスカッション能力を養成するための科目（実験・実習）を置く。
(AP1・2・3)

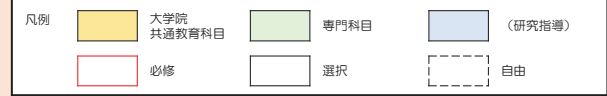
グローバル合宿・在外研究体験

CP4. 起業家精神を育むために必要な基礎的知識、問題解決能力、リーダーシップ、イノベーション能力、高い倫理観と社会的責任感を養成するための科目（講義、演習）を置く。
(AP1・2・3・4)

研究公正E
スタートアップ&ビジネス戦略事例研究
事業化コンサルティング演習
知的財産戦略演習
アイデア発想力養成演習
マネジメント&マーケティング演習
Marketing and Management for Innovative Products/Services
ベンチャービジネス&アントレプレナーシップ基礎演習
リーダーシップ&チームマネジメント演習

CP5. 最先端の研究を行う学外講師により、創薬科学分野のより広範な専門知識と調査・研究方法を養成するための科目（講義）を置く。
(AP1・2・4)

創薬科学研究者養成講義C
創薬科学研究者養成講義D
創薬科学研究者養成講義E



アドミッション・ポリシー

AP1. 優れた学業成績を持ち、特に異分野間での知識融合やアイデア発展能力、論理的思考力、及びインターディシプリナリーなアプローチができる高いポテンシャルを有する人物。

AP2. 大学院博士前期課程修了程度以上の基礎学力を有し、グローバルな環境下で学際研究に積極的に取り組む意欲があり、高度な英文読解力と英語表現力を有する人物。

AP3. 異なるバックグラウンドを持つ研究者を牽引するリーダーシップを発揮しながら研究を進め、その成果を適切に伝える高いコミュニケーション能力を有する人物。

AP4. 創薬科学分野あるいは関連する分野で大学院博士前期課程修了以上の研究能力を持ち、自ら研究を立案・計画・遂行できる優れた能力と知的好奇心を備えた人物。

【資料02】創薬研究インターンシップ・ルーブリック評価表

創薬研究インターンシップの評価

インターン学生氏名： _____

評価項目	採点	ルーブリック評点				
		5 (卓越)	4 (優秀)	3 (十分)	2 (発展途上)	1 (要改善)
(1) 業務遂行能力		自律的に全業務を遂行し、目標を完全に達成した。	最小限の指導で業務を遂行し、目標を十分に達成した。	一定の指導の下で目標を達成した。	多くの指導を必要とし、目標の一部を達成した。	指導を受けても業務遂行が困難で、目標をほとんど達成できなかった。
(2) 研究スキル		高度な実験技術を独自に活用し、問題解決能力を発揮した。	実験技術を適切に活用し、期待される結果を十分に得た。	基本的な実験スキルは十分だが、応用に課題がある。	技術の習得が不十分で、再現性に問題がある。	実験スキルの欠如やエラーが多く、結果が得られない。
(3) データ解析・報告能力		データ解析が精緻で、論理的かつ説得力のある結論を提示できた。	データ解析が正確で、適切な結論を導き出した。	基本的な解析はできているが、結論がやや曖昧な部分がある。	解析の精度や結論に不備が見られ、改善が必要。	解析の方法や結論に重大な誤りがあり、内容が不十分。
(4) コミュニケーション能力		チーム内外で積極的に議論・報告し、協力を円滑に促進した。	チーム内で適切に報告・相談し、効果的に協力できた。	基本的な報告はできているが、消極的な姿勢が見られる。	報告や相談が不十分で、チーム活動に影響が出た。	コミュニケーション不足がチーム活動に重大な支障をきたした。
(5) プロフェッショナリズム		高い倫理観と責任感を示し、自己管理が完璧で模範的だった。	倫理観と責任感を十分に持ち、適切に自己管理を行った。	基本的には責任感を持って行動しているが、改善の余地あり。	倫理観や責任感が欠ける場面が一部見られる。	倫理観や責任感に重大な問題があり、自己管理も不十分。
(6) 最終成果の発表(プレゼンテーション能力)		内容が深く、構成・プレゼン技術が極めて優れていた。	内容が的確で、構成も分かりやすかった。	基本的な内容は伝えられているが、プレゼンに改善が必要。	内容が薄く、プレゼン技術に多くの課題がある。	内容が不足しており、プレゼンの意図が伝わらなかった。

合計点

コメント:

合計点を算出して評価を以下の基準で示す。

- A(優秀): 合計スコア 26~30
- B(良好): 合計スコア 21~25
- C(十分): 合計スコア 16~20
- D(要改善): 合計スコア 11~15
- E(不可): 合計スコア 10以下

評価者氏名 : _____

令和 年 月 日